

柏原地域の街並みを美しいバラで彩る
ボランティアグループ「かいバラ友の会」



絶やさずにバラを咲かせる
キーワードは「愛情」

柏原地域の商店街などを訪れる人にバラを楽しんでもらおうと、街並みにバラを植栽するボランティアグループ「かいバラ友の会」。多彩なバラを毎年美しく咲かせるためには人の手入れが不可欠です。

バラ園の維持管理に試行錯誤しながらも愛情を込めて植栽に取り組む会員のみなさんに話を聞きました。

多くの人にバラを楽しんでほしい

研究を重ねて愛情を注ぐ

「かいバラ友の会」がバラを植え始めたきっかけは、旧柏原町で町花のバラを出生児の記念品として、希望者にバラの苗を配布していたことに始まります。合併後も柏原地域で親しみのあるバラを多くの人に楽しんでもらおうと、平成20年頃から国道沿いの柏原本町交差点などに花壇を設け、他団体と協力しながら苗木を植栽しています。

現在では有志15人で、商店街など7個所のバラ園や花壇に、50種類以上、約1,000本のバラを管理しています。

バラを植栽するだけでなく、柏原商店街のイベント「百円笑店街」や「薔薇まつり」で切り花を販売したり、バラに親しんでもらえるように柏原中学校の卒業記念品として、苗を贈っています。

昨年と今年は、コロナ禍でイベントが中止になりましたが、柏原地域に訪れる人にバラを楽しんでもらうため、研究には余念がありません。年2回の講習会や研究会を重ねるなど、美しいバラを満開にするため、絶えず愛情を注いでいます。

雑草・病気対策に試行錯誤

毎年、多彩な花を美しく咲かせるためには人の手入れが不可欠です。施肥や剪定、草引き、消毒、つるの誘引など定期的な管理が必要です。

雑草対策にも苦慮していますが、最も厄介なのは病気です。バラは病気にかなりやすく、3月から10月にかけて月2回以上、消毒液を散布していても、病気にかかることがあります。同じ薬剤の使用を続けると効果が薄れるため、8種類の薬剤の散布順を変えたり、混ぜながら散布するなど試行錯誤しています。

人の目にとまる美しいバラを

商店街に空いている花壇があると、つついバラを植えたくなりますが、花壇を増やすと管理が行き届かなくなり、会員の高齢化や、維持管理に経費がかかるなどの課題もあります。しかし、「綺麗なバラですね」と声をかけられることや、バラの写真撮りながら楽しそうに街並みを歩いている人の姿を見ると嬉しくて活動の糧になります。

今後は商店街のイベント参加者や、植栽に関わる会員を増やし、大勢の人の目にとまる美しいバラを愛情込めて咲かせ続けたいと思います。